

和名：アリモドキゾウムシ
学名：*Cylas formicarius* (Fabricius)
英名：sweet potato weevil

分布

東南アジア、アフリカ、北アメリカ、中南米、オーストラリア等（我が国ではトカラ列島、奄美諸島、沖縄諸島、小笠原諸島）

寄主植物

アサガオ属植物、サツマイモ属植物、ヒルガオ属植物

形態

成虫は体長約6.5mm、幅約2.0mm、全体に金属光沢があり、一見アリに似た害虫である。頭部は突き出し、前胸は小さくくびれている。口吻と翅鞘及びその腹面は黒藍色。胸部と脚は赤褐色、触角は黄褐色。

幼虫は成熟すると約6.0mm。細長く、乳白色で弧状に湾曲し、多数のしわがある。頭部は淡黄褐色。蛹は乳白色。

生態

本種は年間を通じイモの中に卵から成虫まで各ステージのものがみられる。奄美大島では1世代の期間は夏季が30～40日、秋～冬は著しく長くなる。アメリカ合衆国での発生回数は年間の気温に左右され、3～8世代と幅がある。産卵は塊根の露出部や主茎の根際部などに傷を付けて1卵ずつ行う。成虫の寿命は平均4ヶ月、その間に雌は平均65個産卵する。幼虫は食害した孔道内で蛹化する。

被害

幼虫が塊根内に食入し孔道を作る。孔道内の幼虫体後方には排泄物が詰まっている。被害がひどいと塊根内部全体が孔道になり、黒変して悪臭を放ち、苦みを増す。幼虫は地際近くの主茎にも食入する。その加害部位は異常肥大し木質化して折れやすくなる。成虫も葉や塊根表面を食害するが、被害の主体は幼虫である。被害のみられる時期は6月～11月。



図1 アリモドキゾウムシ（成虫）



図2 アリモドキゾウムシ（幼虫）